杉並区教育ビジョン２０１２
共に学び 共に支え 共に創る 杉並の教育

すぎなみ

9年カリキュラム

全ての子どもに、よりよい人生を切り拓く基盤を確実に築く
「つながり」と「生かし合い」の学習指導

外国語教育編

言語や文化の違いを超えて思いを伝え合う喜び
世界大での絆・支え合い

平成２６年３月
杉並区教育委員会
杉並区立済美教育センター

杉並区教育ビジョン２０１２
共に学び 共に支え 共に創る 杉並の教育

すぎなみ

9年カリキュラム

全ての子どもに、よりよい人生を切り拓く基盤を確実に築く
「つながり」と「生かし合い」の学習指導

外国語教育編

言語や文化の違いを超えて思いを伝え合う喜び
世界大での絆・支え合い

平成２６年３月
杉並区教育委員会
杉並区立済美教育センター

◆◇　杉並区教育委員会 挨拶　◇◆

杉並区教育委員会教育長　井出　隆安

杉並区の小中一貫教育

杉並区の小中一貫教育は、「杉並区教育ビジョン 2012」が掲げる二つの人間像である「夢に向かい、志をもって、自らの道を拓く人」「かかわりを大切にし、地域・社会・自然と共に生きる人」の育成を追求し、「全ての子どもが、よりよい人生を切り拓くための基盤を確実に築く」ことを目的としています。本書は、この目的に、義務教育９年間を通した「外国語教育」から迫ろうとするものです。

生きる力・学ぶ力

さて、人間は、自然に働きかけ、社会生活を営む中で様々なことに関わり、考え、課題に挑戦し、新しいものを創り出そうと努力します。それは、人間として生きようとする意志や意欲の現れであり、人間として生きることが、他の生物の生きることと区別される所以はそこにあります。「生きる力」とは「人間として生きていく力」でなくてはならず、日常生活の様々な場面において試行錯誤を繰り返しながら、子どもたち自身の努力によって自らの内に形成されていくものです。

また、人が学んで獲得する力は、その学び方と無縁ではありません。例えば「外国語を学ぶ」ということがどういうことか分からないで、意欲がわくはずもありません。自ら学ぼうという意欲は、学習を通して知識や技術を獲得し、何か新しいことができるようになったという効力感や、課題を解決した成就感や満足感によって触発され、強められます。では、外国語は何のために学ぶのでしょうか。その答えがビジョンに示されています。

自らの道を拓く・共に生きる

「自らの道を拓く」とは、誰もがもつ「よりよく生きたい」「充実した人生を送りたい」という願いを実現していくことです。その実現に向けて努力するところに、人間として生きることの意義と大きな価値があります。「外国語を通じて世界の様々な人たちと交流したい」「外国語を活用する職業に就きたい」。学びとは、そうした自分の希望や願いを実現したいという内発的要求に支えられ、自らを陶冶していく極めて人間的な営みであり、私たちは、自己実現のために外国語を学ぶのです。

しかし、それだけではありません。学びは、社会生活の向上・発展のために自分の力を役立てるという内容と方向性を伴った社会的な行為でもあります。今日、「国際的な教育危機」として知られるように、世界には、初等教育対象年齢 6 億 5,000 万人のうち、少なくとも 2 億 5,000 万人の子どもが基礎的な読みと計算を学んでいない状況があると言います。人間は「共に生きる」社会的な存在であり、社会と関わることなしに生きていくことはできません。グローバル化が加速度的に進む今日、私たちは、自己を抑制し、他者の存在やつながりを尊重することによって、言語や文化の違いを超えて望ましい人間関係を築き、協力して生きていくためにも外国語を学ぶのです。その先に、世界中の誰もが、自らの道を拓き、共に生きるために必要な教育を受ける機会を保障される社会の実現を願って。これを本書では、「ユニバーサリゼーション（universalization）」と呼んでいます。

教育の使命

道は自ら拓かなくてはなりません。共に生きることなくして自らの道は拓かれず、誰もがもつ「よりよく生きたい」という願いは、社会に貢献する意欲への成長を止めてしまいます。教育の使命は、豊かな自己の実現を目指して、自分で自分を育てる強い精神力と逞しい生命力を、全ての子どもに培っていくことです。

しかし、教育の目的や使命を同じくしても、一人一人の成長・発達は多様です。私たち教育の担い手は、一人一人にできることの限界があります。だから、子どもたち一人一人の成長・発達していく姿を「つながり」をもって思い描き、その実現のための方法を同じく「つながり」をもって考え出し、一人ではできないことの限界を乗り超えるために互いを「生かし合い」、教育を為すのです。「つながり」「生かし合い」による杉並区の小中一貫した外国語教育は、義務教育９年間を通じ、言語や文化の違いを超えて思いを伝え合う喜びに気付き、あらゆる境界を超える世界大での絆・支え合いの大切さに自覚を深めながら、自らの道を拓き、共に生きる、すなわち、よりよい人生を切り拓く基盤として、外国語によるコミュニケーション能力を育成しようとするものです。

杉並区の全ての教職員がこのことを強く自覚して、日々の教育活動に取り組まれることを期待します。

平成 26 年３月

◆◇　杉並区立済美教育センター 挨拶　◇◆

杉並区立済美教育センター所長　田中　稔

2013 年、オーストラリア・ウィロビー市への中学生留学事業が再開され、生徒引率や現地との交渉により何度か現地に出向く機会がありました。その内、２回、現地の名門大学である Macquarie 大学を訪れました。キャンパスにはアジア諸国からの留学生の姿が多く見られました。しかし、確実に日本人と思われる学生にはほとんど出会いませんでした。大学職員から話を伺うと学生約 39,000 人のうち、日本からの留学生は 40 人に過ぎないということでした。今、社内公用語を英語とする企業が増えつつあるなど、社会全体のグローバル化が進む日本であるにもかかわらず、日本で学ぶ若者たちの「内向き志向」が指摘されています。Macquarie 大学での経験は、そのことを強く実感できる機会となりました。

杉並区立小中学校では、義務教育の９年間を通して、全ての子どもの多様な学びに応じるために、グローバル化が進む時代を子どもたちが自信をもって人生を切り拓いていけるよう、「日常会話には留まらないビジネスを成立させることのできる外国語によるコミュニケーション力の素地」「積極的に海外に打って出ようという姿勢」といったより発展的な内容までも視野に入れ、外国語教育を為していかなければなりません。

そのような中、昨年末、2020 年（平成 32 年）開催の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、新たな英語教育が本格展開できるよう、文部科学省は「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」（2013 年（平成 25 年）12 月）を定め、抜本的な英語教育改革を進める意思表示を行いました。その中では、「小学校中学年から英語教育を始めるなど、小・中・高等学校を通じて一貫した学習到達目標を設定すること」「大学入試において４技能を測定可能な英検、TOEFL 等の資格・検定試験等の活用の普及・拡大を進めること」などが案として示されています。この計画通りに進むと、これからの学校教育において、英語教育は質的にも量的にも現在よりも高度化・拡充化していきます。

このような動きを待つことなく、杉並区では「新泉・和泉地区」を国の英語教育特区に指定するなど、小・中学校における国際理解教育の一環としての外国語活動や外国語学習を先駆的に進め、外国語によるコミュニケーション能力を育ててきました。また、「杉並区教育ビジョン 2012」の重点に据えた小中一貫教育等を進める中で外国語教育がどの小・中学校においてもより充実してきていることを実感しております。

今回、済美教育センターでは、我が国の外国語教育を取り巻く変化「グローバリゼーション」を正面から受け止め、「つながりと生かし合いの学習指導」を中心的概念に据え、「小学校から中学校に」、「外国語活動から外国語学習に」より「系統性」「連続性」ある指導が行われるよう「すぎなみ９年カリキュラム――外国語教育編」を作成しました。

内容においては、2013 年（平成 25 年）３月に発表した国語編、算数・数学編と同じく、小・中学校の９年間において一貫性のある指導、協働的な指導がより一層進むよう全体像・系統表を示しました。また、サブタイトルを「言語や文化の違いを超えて思いを伝え合う喜び、世界大の絆・支え合い」としたように指導事例においては、外国語によるコミュニケーション能力を育成することだけではなく、異なる言語や文化を理解・承認することを常に基盤としたものを収録しております。そのことが強く伝わる事例として、小・中学校９年間の外国語教育の集大成として、ユニバーサリゼーションを根底に据えた国際的視野に立って物事を考え、英語により自分の主張を相手に伝えること、また、言語や文化の違いを超えて、各々の言語や文化の根底にあるものの見方や考え方までも承認しようとする態度を育成することをねらいとした「卒業スピーチ」が掲載されています。

このような学習活動がどの区立学校においても展開されていくようになれば、サブタイトルに示された本書の作成に携わった方々や杉並区教育委員会の思いや願いが達成されていくものと確信いたします。

本書が、区立小、中学校において、外国語教育や国際理解教育を進める上での指針や実践資料として、児童・生徒の指導に関わる教職員や多くの関係者などに読まれ、具体的な指導や研修に大いに活用されることで小中一貫した外国語教育等の一層の充実が進められることを期待しております。

終わりに、今回の作成に際して、ご協力くださった方々に厚く御礼申し上げます。

平成 26 年３月

◆◇　目次　◇◆

杉並区教育委員会　挨拶――杉並区教育委員会教育長　井出　隆安
杉並区立済美教育センター 挨拶――杉並区立済美教育センター所長　田中　稔
「カリキュラム」という用語と『すぎなみ９年カリキュラム』という名称について

Ⅰ　小中一貫教育 理論編――「つながり」「生かし合い」によって為す義務教育９年間を通した多様で一貫性のある教育

総説・編成方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

１　義務教育９年間を通した多様で一貫性のある教育の理論的な始発点
⑴ 杉並区教育ビジョン 2012 と市民社会の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
⑵ 杉並区教育ビジョン 2012 推進計画にみる主たる課題・・・・・・・・・・・・・・ 14
⑶ 理論的な始発点としての成長・発達の一様性／多様性、つながりと生かし合い ・・・・ 15

２　６−３制の前提、意図的な接続と一貫性のある教育
⑴ 成長・発達の過程や学年（等）のまとまりに関する多様な理論 ・・・・・・・・・・ 16
⑵ 多様な理論の活用に当たっての留意点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
⑶ 6-3 制の前提、意図的な接続と一貫性のある教育・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

３　系統性と連続性というつながり、協働という生かし合いと一貫性のある教育
⑴ 教育目標・内容の【系統性】の理解 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
⑵ 教育方法の【連続性】の確保 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
⑶ 教育人材の【協働】、系統性・連続性との相補完による一貫性のある教育の深化・・・・ 24

４　今後１０年の実情に応じた多様で一貫性のある教育の展開によせて
⑴ 各学校・地域の実情に応じた多様で一貫性のある教育活動の構想・展開 ・・・・・・・ 26
⑵ 旧杉並区教育ビジョン下での教育基盤の整備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
⑶ 今後 10 年の杉並区小中一貫教育の展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

引用・脚註・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

Ⅱ　外国語教育 理論編――言語や文化の違いを超えて思いを伝え合う喜び、世界大での絆・支え合い

１　義務教育を中心とした外国語教育のこれまで、現在
⑴ グローバリゼーションと英語教育改革 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
⑵ 我が国における外国語（英語）教育のこれまで ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
⑶ 我が国における外国語（英語）教育の現在 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

２　杉並区教育ビジョン 2012 とこれからの外国語教育
⑴ 杉並区立学校における外国語教育の現状と課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
⑵ グローバリゼーションとユニバーサリゼーション、外国語教育のこれから ・・・・・・ 42
⑶ 言語や文化の違いを超えて思いを伝え合う喜びに気付き、世界大での絆・支え合いの大切さに自覚を深める ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43

３　義務教育９年間を通した多様で一貫性のある外国語教育の構想に関する諸規定
⑴ 指導目標・内容（事項）の【系統性】に関する規定 ・・・・・・・・・・・・・・・ 44
⑵ 指導と評価の方法の【連続性】に関する規定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
⑶ 多様な教育人材の【協働】の推進に関する規定と系統的・連続的な教育活動の構想 ・・ 52

４　すぎなみ９年カリキュラム 外国語教育 実践編の構成
⑴ 目標・内容（事項）の【系統性】の構造的理解に関する実践 ・・・・・・・・・・・ 56
⑵ 方法の【連続性】の確保に関する実践 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
⑶ レッスンプランの基本型と人材の【協働】の推進に関する実践、巻末資料 ・・・・・・ 62
⑷ 今後 10 年のその先に在る外国語教育のよりよい未来へ、コラム・・・・・・・・・・・ 64

引用・脚註・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66

Ⅲ　外国語教育 実践編——義務教育９年間を通した系統的・連続的・協働的な学習指導例

１　義務教育９年間を通した一貫性のある外国語教育の全体像・系統表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70

２　小学校外国語活動

第１学年　９月（事例 1-1-1）あいさつ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76

１月（事例 1-1-2）ともだちさがしゲーム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80

★（小）スタートコラム「聞くこと」「話すこと」の導入期の指導、就学前教育からの接続

第２学年１２月（事例 1-2-1）クリスマス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 86

★（小）コラム１ 異なる言語や文化に初めて触れる体験

第３学年　３月（事例 1-3-1）発表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 92

第４学年１０月（事例 1-4-1）ハロウィーン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 96

★（小）コラム２　学習の評価と記録

第５学年　１月（事例 1-5-1）学校生活 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 102

第６学年　３月（事例 1-6-1）将来の夢から卒業スピーチをしよう ・・・・・・・・・・ 106

★（小）コラム３　言語や文化の違いを超えて思いを伝え合う喜びとグローバリゼーション
個にとっての学ぶことの意味

３　小学校外国語活動からの接続・中学校外国語科の導入

接続から導入　（事例 1-6-2）Start Project　自己紹介を通して積極的に関わろう・・・・・・・ 114

★（中）スタートコラム「読むこと」「書くこと」の導入期の指導、音声と記号

４　中学校外国語科

第１学年１学期（事例 2-1-1）My Project 1　自己紹介をしよう ・・・・・・・・・・・・・・・ 124

★（中）コラム１　指導と評価の一体化、評価と評定

２学期（事例 2-1-2）My Project 2　人を紹介しよう ・・・・・・・・・・・・・・・・ 134

★（中）コラム２　個に応じた指導・習熟度別指導

３学期（事例 2-1-3）My Project 3　質問してプロフィールカードを作ろう ・・・・・ 142

★（中）コラム３　４技能の統合的指導１（中学校第１学年）

第２学年１学期（事例 2-2-1）My Project 4　対話をつなげて相互理解を深めよう ・・・・・・ 150

★（中）コラム４　学習意欲の喚起

２学期（事例 2-2-2）My Project 5　将来の目標から相互理解を深めよう ・・・・・・ 158

★（中）コラム５　外国語の指導を通じた言語や文化に対する理解と承認

３学期（事例 2-2-3）My Project 6　賛成や反対を超えて承認し合おう ・・・・・・・ 166

★（中）コラム６　４技能の統合的指導２（中学校第２学年）

第３学年１学期（事例 2-3-1）My Project 7　外国文化のインタビュー記事を作ろう ・・・・・ 174

★（中）コラム７　義務教育９年間の学習の集大成に向けて

２学期（事例 2-3-2）My Project 8　日本の伝統文化をプレゼンテーションしよう ・・ 182

★（中）コラム８　他教科等との関連を図った指導

３学期（事例 2-3-3）My Project 9　学びの成果を還元するプロジェクトを
追究しよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 190

★（中）コラム９　４技能の統合的指導３（中学校第３学年）

５　義務教育課程の修了

（事例 2-3-4）Last Project　2020 年 東京オリンピック・パラリンピックを
見据えて、卒業スピーチをしよう・・・・・・・・・ 198

★（中）ラストコラム　世界大での絆・支え合いとユニバーサリゼーション
社会にとっての学ぶことの意味

Ⅳ　資料編――義務教育９年間のよりよい外国語教育のために

- 学習指導要領 小学校外国語活動・中学校外国語科（全文） 208
- 放課後等の教育支援の在り方（文部科学省、平成 26 年３月 19 日） 215
- 教育環境の整備の実践事例 216
- 小学校外国語活動における他教科との関連を図った指導の実践事例 220
- 杉並区中学生海外留学事業（杉並区次世代育成基金活用事業） 224
- Basic Expressions & Aphorisms to Foster Sense of English 226
- 生き方を学ぶ教育活動の手引き（杉並区立済美教育センター、平成 25 年３月 31 日） 234
- 杉並区「特定の課題に対する調査、意識・実態調査」の設計 238
- 平成 26 年度学力向上推進計画の作成、平成 26 年度教育課程への反映、及び提出について（通知） 242
- Expectance for ESP Project in OECD Policy Forum (December 2013) 244

平成 25 年度杉並区学力向上調査委員会外国語部会等・杉並区立済美教育センター（事務局）名簿
終わりに――杉並区立済美教育センター統括指導主事　　出町　桜一郎

図表一覧（図表名の一部は略記して掲載）

Ⅰ　小中一貫教育 理論編

杉並区小中一貫教育の全体像
図Ⅰ-１　杉並区教育ビジョン 2012 の基本目標と杉並区基本構想（10 年ビジョン）
図Ⅰ-２　平成 25 年度 杉並区「特定の課題に対する調査」結果、中学校第３学年５月時点、第２学年の学習内容
図Ⅰ-３　平成 25 年度 東京都「児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」結果、中学校第３学年１学期時点
図Ⅰ-４　平成 25 年度 杉並区「意識・実態調査」結果、中学校第３学年５月時点、
図Ⅰ-５　成長・発達の一様性／多様性
表Ⅰ-１　学校教育法上の学校制度、成長・発達の過程、学年（等）のまとまりに関する理論
表Ⅰ-２　人の成長・発達の系統、杉並区教育ビジョン 2012 に記される学びの順序立て
表Ⅰ-３　国語科における指導目標・内容（事項）の系統性の構造的理解
表Ⅰ-４　算数・数学科における系統性の構造的理解に基づく連続性の確保
表Ⅰ-５　外国語における系統性の構造的理解に基づく連続性の確保、目標及びその系統性に準拠した連続的な評価
図Ⅰ-６　系統性と連続性（つながり）、協働（生かし合い）の相補完（かけ合せ）による一貫性のある教育の深化
図Ⅰ-７　小中一貫教育の中核となる姿と多様な教育活動の構想（例）
表Ⅰ-６　小中一貫教育の中核となる姿を取り囲む多様な教育活動（例）
図Ⅰ-８　地域に開かれた公共空間・生涯にわたる教育施設としての型態分類
図Ⅰ-９　実情に応じた多様で一貫性のある教育を支える三つの基軸とその関係
表Ⅰ-７　旧杉並区教育ビジョン下に整備した確かな教育基盤に係る施策（一部）
表Ⅰ-８　総合支援機関としての済美教育センター（施設内、平成 25 年度）
表Ⅰ-９　ビジョン推進計画の目標に至る今後 10 年の杉並区小中一貫教育の展開

Ⅱ　外国語教育 理論編

表Ⅱ-１　「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」（平成 25 年 12 月 13 日、文部科学省）の概要
表Ⅱ-２　「平成 26 年度スーパーグローバルハイスクールの概要」（平成 25 年 12 月 24 日、文部科学省）の摘要
表Ⅱ-３　学習指導要領に規定された中学校外国語科、小学校外国語活動の目標
図Ⅱ-１　平成 25 年度 杉並区「特定の課題に対する調査」における外国語科の結果
図Ⅱ-２　平成 25 年度 杉並区「意識・実態調査」、外国語教育に関わる児童の自己評価の状況
図Ⅱ-３　平成 25 年度 杉並区「意識・実態調査」、外国語教育に関わる生徒の自己評価の状況
表Ⅱ-４　指導目標・内容（事項）の【系統性】に関する規定、学習指導要領の再構造化
表Ⅱ-５　コミュニケーション活動を基礎とした指導方法の【連続性】に関する規定、学習指導要領の再構造化
表Ⅱ-６　各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の設定
表Ⅱ-７　「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定及び、年間指導計画・単元計画への反映、学習指導要領の再構造化
表Ⅱ-８　教育人材の【協働】に関する規定、学習指導要領の再構造化、CAN-DO リストの形での学習到達目標の設定から
表Ⅱ-９　道徳の内容項目に関する規定、郷土愛・国際理解
表Ⅱ-10　系統的・連続的な指導の構想に関する規定、学習指導要領の再構造化
図Ⅱ-４　全体像：義務教育９年間を通した系統的な学習到達目標、単元配列、連続性確保と協働推進の構成
図Ⅱ-５　系統表：義務教育９年間を通した単元目標と観点別学習状況評価の規準一覧の構成
表Ⅱ-11　杉並区における系統的・連続的な外国語教育の学習指導に関する規定
図Ⅱ-６　（第二）学習指導の展開の基本型による連続性の確保
図Ⅱ-７　レッスンプランの基本的な構成
図Ⅱ-８　杉並区教育ビジョン 2012、基本目標達成ための取組の視点のイメージ
図Ⅱ-９　取組の視点のうち特に「連続性」を具体化する杉並区小中一貫教育

◆◇ 「カリキュラム」という用語と『すぎなみ９年カリキュラム』という名称について ◇◆

「カリキュラム」（curriculum）は、一般に、教育の目的・目標に応じ、修業年限の中で構想された教育の内容と方法の総合的な計画を意味し、我が国においては、「教育課程」とほぼ同じ意味に扱われることが多いと考えられます。ラテン語の「走る」（currere）に由来するこの言葉は、古代ローマでは「競技場の走路」を意味し、そこから転じて「人生のコース」を意味するようになった歴史があると言います。

こうした歴史からも、「カリキュラム」という語は、本来より広義なものです。それは例えば、「学校における学習経験の総体」と言われます。あるいは20世紀半ばあたりからは、「かくれたカリキュラム」「潜在的カリキュラム」に代表されるように、（学校）生活を通じて学習者の人間形成に影響を及ぼすものごとの全てまでも含むものとしてカリキュラムという用語が使われています。

本書『すぎなみ９年カリキュラム』は、広義のカリキュラムの意味を基に名付けるものです。すなわち、もし、あらゆる教育の目標や内容、方法が（これまで以上に）「つながり」、あらゆる教育の人材が（これまで以上に）互いを知り、分かり合うことができたなら。私たちは、もっとよい教育ができるはずです。世代、ひいては言語や文化の違いを「生かし合い」、教育に関わるあらゆる人の思いや願いをつなげることができたなら、全ての子どもに、よりよい人生を切り拓く基盤を確実に築く、（これまで以上に）質高い学びを創り出すことができるはずです。

狭義の教育課程という意味を超え、いまいちど「教育」という営みをみつめ直し、そこからその普遍的な「本質」を取り出し、鍛え上げ、あらゆる教育活動を基礎付ける教育方法の「原理」論とする。『すぎなみ９年カリキュラム』は、そうした意図の下に名付けられています。